

# 秩乃杜

秩父神社社報  
柞乃杜(ははそのもり)

第 29 号

平成16年7月20日  
(川瀬祭)



柞の森

神に仕える

人ゆく

ひとよし此の世と

無縁の刻と

龍子

## 子らの夏まつり

秩父なるこの山里の 里びとの母なる神の 神さびた ははその杜に  
今宵また 夏のさかりに うまし子ら 勇みて集ふ

杜はいま いのちに満ちて 深みどり 境内を包む  
今宵こそ 夏のひととき 子らの曳く標の山の 競ひあひ 境内を埋む

時みちて タやみのなか 日の御崎 すさのをの神  
いとし子ら 病みてならじと 子らのまつ 境内に立たす

昔より 子をもつ親の まな子なる我が子のいのち 神にも祈る  
今もなほ 尊きいのち 握るぎなく 健やかなれと 神に祈らむ

反かへ  
歌しうた

深みどり 齋庭ゆにはに満ちて わらべらの 声さはに立つ 祭りなりけり

## 解説 秩父神社(28)

秩父市文化財保護審議委員

坂本才一郎

### ◆天皇皇后両陛下 第一回埼玉国体御来秩



本年、第二回目の埼玉国体が開催されるにあたり、この度の秩父神社解説は昭和42年に開催された初めての埼玉国体の様子を振り返ることにする。

天皇皇后両陛下、秩父宮勢津子

妃殿下にご臨席いただいた初めて

の埼玉国体の秩父会場。国指定重要民俗文化財となつた二基の笠鉾と四基の屋台を御覧いたいた。現在の屋台笠鉾に飾れる「賜大覽」の文字はこの時のことである。

御製  
弟をしのぶゆかりの館にて  
秋ふかき日に柔道を見る

昭和42年10月26日、埼玉新聞の記事は「両陛下、秋深まる秩父路へ」「奥武藏の紅葉お楽しみ武甲山坂道でご散策も、熱心に野生植物ご観察」正丸峠で紅葉の奥武藏を眺望される両陛下の写真を掲載している。

県内ご滞在四日目の天皇皇后両

陛下は、25日お泊り所の飯能東雲

亭から山あいの国体自転車ロード

レースの県道を北上、秩父市に向

かわれる途中標高六八〇メートル

の正丸峠頂上展望台にお立ち寄り

になられ、深みゆく秋の眺望を樂しまれた。皇后陛下はじめての

奥武藏野のご旅行だけに特にお楽

しみの様子だつた。

「両陛下、奉迎にわく秩父」「拍手・・・波打つ小旗」「屋台背に

秩父市役所裏広場で屋台をパック

に両陛下を日の丸の小旗で歓迎す

る大群衆。(写真)

この日天皇皇后両陛下は午後〇

時六分に秩父市役所にご到着になつた。同市役所周辺は長寿クラブや戦没者遺族など市が招待した奉迎者二千五百人をはじめ、一般奉振つてお迎えした。両陛下は市役所で小休止されたのち、久喜市長の案内で市役所三階ロビーにお立

ちになつた。

秩父公園広場を埋めた約一万人の市民の割れんばかりの拍手とち

ぎれるほどに小旗が波を打つたのはこの時。同公園広場には国指定

重要民俗文化財である屋台四基と

笠鉾二基が天覧の栄に浴し無上の

喜びであつた。両陛下が宿舎の有

恒クラブにお帰りになつたあと、午後二時すぎから秩父宮妃殿下が

秩父市役所などを訪問された。両

陛下を奉迎した市民はそのまま列

をくずさないで妃殿下を親しくお

迎えした。妃殿下はわざわざ屋台

のそばまでお歩きになり、久喜市

長らの説明に耳を傾けられたあと

飯能市へ向かわれた。

お泊り所でご休憩になられた天

皇皇后両陛下は、お召し車を乗り換えられて、お泊り所から約二・五キロ離れた武甲山登山口で車を降りられ、約八〇〇メートルの山

坂道を登られて、林の中を散策さ

れた。坂道には、可憐な野菊やア

ザミが咲きこぼれ、畑の中を散策さ

れた。坂道には、山裾の田中のきぶね菊

タくれなみにはへるを見つ

御製

山裾の田中のきぶね菊  
タくれなみにはへるを見つ



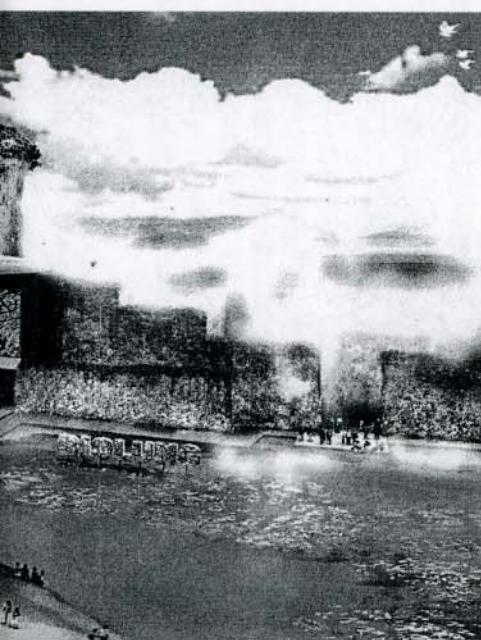
## 「愛・地球博」出展とお願い

秩父神社宮司  
社叢学会副理事長 薦田 稔

来年の平成十七年三月から半年のあいだ、かつての大坂万博に匹敵する「二〇〇五年日本万国博覧会」が、現代の差し迫つた地球環境問題を踏まえ、「自然の叡智」をテーマとする新しい文明の創造を目指した画期的な愛知・環境博として開催されることになり、名古屋市郊外の会場で、いまや急ピッチで諸施設の建設がすすめられていることは、ご存知のことと思います。

また、今年が「遷宮元年」という意義ある年度に当たり、平成二十五年秋の第六十二回神宮式年正遷宮をめざして、まさに愛知万博の開催期間なればの来年六月から、木曽山地のヒノキ美林での御神木始祭に始まる、古式豊かな御桶代木奉戴の大切な事業が展開されることになっています。

そこで当学会は、この伊勢のご遷宮事業こそ日本古来の世界に誇るべき森林文化であり、日本人本来の靈的生命觀を代表する神道文化として国内外に広く訴えるためにも今度の愛知万博へ出展参加して、神宮崇敬と遷宮奉賛を高める強力なメッセージを発信しようと考えたのです。最終的には以下のような出展企画にまとまりました。



塔上に天空  
予想図

### 1 全体主題「森に生きる日本文化」 屋外会場

#### ① 千年の森 を造成する。

東ゲート付近に約二千平方米の丘陵を確保、常緑の森を造成する。博覧会終了後も、万博記念公園の一画として保存される。

2 造成する。  
② シンボル・タワー二本の頂上部に「天空・鎮守の森」を造成する。博覧会場の中央広場の前面に造成される巨大な緑化「バイオ・ラング（緑の都市浄化装置）」に設置される高さ二十五米の塔二本の頂上に各二〇平方米の林叢を造成する。

#### 映像展示

① ハイビジョン映像作品「日本は森の国」シリーズ六本（各一〇分）制作。  
オムニバス作品六本を適宜組み合わせて、「千年の森」の一角に設置する四阿（あずまや）で常時上映するほか、随時ほかのパビリオンなどに提供し活用する。  
ハイビジョン実況中継「御神木奉戴」ほか神宮遷宮記録と紹介

万博期間中の六月上旬に斎行される木曽山地での御神木奉戴神事・奉曳行事を会場に実況中継し、あわせて遷宮事業の映像記録をも上映する。

### 3 國際シンポジウムの開催

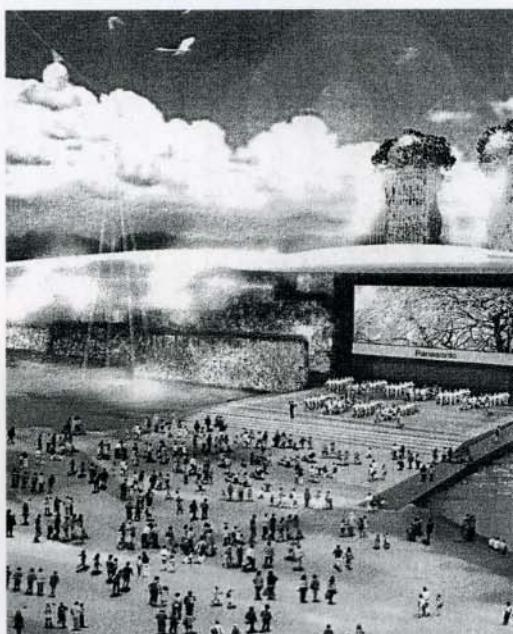
会場内の小催事場において「森の文明」をテーマに社叢学会の主催で学術シンポジウムを開催する。

以上の三種類五項目の企画を煮詰めながら、今年に入つてようやく実行委員会を立ち上げ、現在は神社界を中心とする各方面の宗教団体や関係団体に広く企画上の協力や資金面の協賛をお願いしつつ、それぞれの出展準備に取り掛かつたところです。

そのなかでも特筆に値することを二三紹介しますと、まずは屋外会場について「天空・鎮守の森」がメイン会場の中心に立つ二本の巨大なシンボル塔の上に設置されることで、今回の国際博覧会の中心テーマ「自然の収知」を、紛れもない我らの神道文化が代表することになつたということ。さらには映像展示について②の神宮式年遷宮の一連の神事や行事をハイビジョン実況中継することを、ほかならぬNHKが本腰を入れて実現してくれることになつたということです。これには、神宮司庁も全面的に協力することになり、すでに両者の担当者同士でその具体化への協議に入つており、あとは会場での放映に向けて現場のスケジュールを詰めるばかりに漕ぎつけたところなのです。

そうした事情をご賢察の上、本誌の読者各位におかれては、個人と団体とを問わず、ぜひとも協賛のほどお願いする次第です。また当然のことながら、ご協賛いただく団体ならびに個人のご芳名は、すべて洩れなく公的記録にとどめ、永く後世にご功績を明記します。

なお本事業は愛知万博への公式参加なので、協賛金拠出に対しては税法上損金算入の特典が認められることを申し添えます。



### 表紙歌解説

**柞の森 神に仕える人とゆく**

ひととき此の世と無縁の刻と

この度の歌は、宮城県氣仙沼市にお住まいの女性歌人熊谷龍子さんの歌集「柞の森」から掲載させていただきました。

実は、熊谷さんの実家は代々林業を営んでおられるそうで、当社の柞乃杜に大変興味をもたれ、第四回のまほろばシンポジウムの折り、講師である畠山先生と一緒に御来社いただきました。

また、熊谷さんの師である東大出身の歌人で歌詞は「ははそのもり」をはじめ何か不思議なご縁で結びつけられているように感じなりません。

### 表紙解説



この度の表紙絵画は、第四回ははそのもり美術展に出品された小鹿野町にお住まいの洋画家逸見桂一先生の作品「葱坊主の頃」を掲載させていたしました。

先生は、根岸敬先生の弟子として洋画を学び、県展特選三回、一水会展特選二回、日展入選十回を重ね、この間NHKにスケッチ場面の放映や、国体芸術展にも出品された作品が大手出版社発行の現代洋画作品集にも掲載。さらに、県展審査員を勤め、日展会友、県展招待作家として県内外で活躍されています。

表紙絵の「葱坊主の頃」は、秩父市郊外丘陵地帯の美しい鮮やかな緑と農家と葱坊主で、五月のさわやかな空気と秩父の風土を詩的に表現したかったと語っています。また当然のことながら、ご協賛いただく団体ならびに個人のご芳名は、すべて洩れなく公的記録にとどめ、永く後世にご功績を明記します。

なお本事業は愛知万博への公式参加なので、協賛金拠出に対しては税法上損金算入の特典が認められることを申し添えます。

バイオ・ラン  
鎮守の森完成

## 社団法人 秩父宮会事業報告



5月3日通常総会参加者

去る五月三日、恒例の秩父宮祭に引き続き、秩父神社參集殿を会場に通常総会を開催致しました。本年は、秩父宮勢津子妃殿下の甥である松平恒忠様、また元秩父宮家宮務官である山口峯生様をご来賓としてお迎えし、和やかに開催することができました。

特に松平様には、毎年変わるごとなく秩父宮両殿下の慰靈祭を続けてきた多くの関係者に対しても感謝と労いのお言葉をおかけにならいました。

その後、六月六日には霧藻ヶ峰の御尊影レリーフの大前において、恒例の奥秩父山開式と共に秩父宮殿下御尊影レリーフ建設五十周年記念式典が開催されました。このレリーフは、親王殿下薨去の翌年である昭和二十九年に、秩父山岳連盟と本会とが協力して建設したもので、当日は守屋勝平副会長が会を代表して祝辞を述べたほか、清水武司・新井トミ工・浅見武史各理事をはじめ、多くの会員が参列する中、盛大に挙行されました。

その後、六月六日には霧藻ヶ峰の御尊影レリーフの大前において、恒例の奥秩父山開式と共に秩父宮殿下御尊影レリーフ建設五十周年記念式典が開催されました。このレリーフは、親王殿下薨去の翌年である昭和二十九年に、秩父山岳連盟と本会とが協力して建設したもので、当日は守屋勝平副会長が会を代表して祝辞を述べたほか、清水武司・新井トミ工・浅見武史各理事をはじめ、多くの会員が参列する中、盛大に挙行されました。

れるとともに、改めて秩父宮家が存在した大正十一年から平成七年までの七十三年間を回顧され、激動の時代を国民と共に歩まれた、両殿下のご遺徳に触れられました。

また、昭和天皇の弟宮として多忙な日々を送られ、困難な時代を真摯に生き抜かれた両殿下のご事蹟を未長くお守りし、後世に伝えゆくためにも、現在「みどりの日」としてある四月二十九日を「昭和の日」と改め、激動の昭和の時代に思いを致す日とされたい旨、

ご意見を披瀝されました。かねてより「昭和の日」の実現は多くの国民が支持するところであり、松平様のお言葉は実際に時宜を得たご意見と、参加者一同、感銘を深く致しました。

らも、時代のニーズに合わせた事業を企画し、事業展開してまいりましたが、十周年を経て十五周年を迎えるにあたり、記念式典の開催は考えておりませんが、各事業につきましては、氏青十五周年記念事業と銘打ち、会員はもとより周囲の方々へもアピールしていただきたいと考えております。さらに各事業につきましては、多くの会員の皆様が楽しく参加いただけよう、役員間で切磋琢磨し事業を再構築していくことを考えております。

また、記念事業として今ひとつ計画中のものがございます。現在高齢化社会に伴い、神社にお参りいただく方々の中には、車椅子等でお出かけになる方も増え、ご本殿のある上の境内へ上がる事が出来ず、お参りを断念される方が多く見受けられます。車椅子のままでも登り降りの出来るスロープの建設を氏青の単独の記念事業として計画中です。

いずれにいたしましても企画倒れにならぬよう、任期新役員として精一杯の努力を傾ける所存です。どうか皆様のご指導・ご鞭撻・ご理解・ご協力を賜りますよう切にお願い申し上げ、新役員を代表してのご挨拶に代えさせていただきます。



## 就任挨拶

氏子青年会公会長 正田裕幸



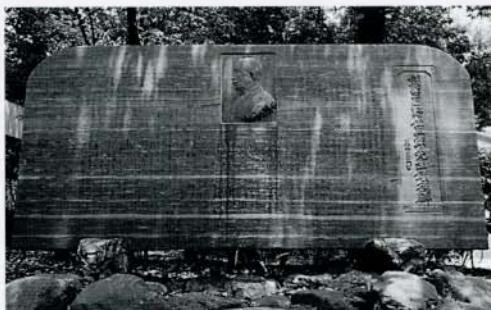
## 退任挨拶

氏子青年会前会長 武島利夫

緑が似合う季節となりました。皆様におかれましては、愈々ご健勝のこととお慶び申し上げます。また、日頃より氏子青年会に対しまして、ご理解ご協力をいたたき、心から御礼申し上げます。早いもので会長就任以来あつという間に二年が経ち、お蔭さまでこの間充実した氏青活動を過ごさせていたきました。なかでも秩父神社境内に延べ三千数百名の人をを集め、小さなお子さん達を一日神社で遊ばせようと、手作りの模擬店を開くなど工夫し、参加したちびっ子に大いに喜んでもらえた大イベント「ははその杜フェスティバル」を開催したことです。またこれを機会に各町会の横のつながりも一層強いものになり、スタッフ皆様に深く感謝申し上げます。

最後になりましたが一期二年、多くの方々に支えられ、ご理解ご協力頂きましたこと厚く御礼申し上げ、秩父神社とともに正田新体制の氏子青年会が益々ご発展しますこと、会員の皆様のご健勝とご活躍をご祈念申し上げまして、御礼と退任のご挨拶にさせていただきます。二年間有難うございました。

## 秩父の偉人 高野佐三郎



市指定史跡 高野佐三郎遺跡

本年は、第五十九回国民体育大会が埼玉県下で開催され、「彩の国まごころ国体」とどけこの夢この歓声」とタイトルされ、当秩父市は、剣道・山岳縦走の二種目が十月二十四日(土)二十七日(日)の期間開催されます。

前回の昭和四十二年埼玉国体では、天皇皇后両陛下が御来秋され、弟宮様ゆかりの秩父宮記念市民会館にて柔道を御観覧あそばされました。また同日、秩父市営弓道場にて弓道を御観覧されています。

慶應二年、佐三郎少年五歳の時、忍城主松平下総守に祖父苗正とともに小野派一刀流五十六本の組太刀を御観に入れ、城主から「奇童」と称えられ銀一封が与えられたといいます。しかし明治十二年四月に行われた「上武合体剣術大会」において群馬県安中の岡田定五郎との対戦では、激しい突きの連続に喉笛を破られ袴を鮮血で染めるほど屈辱的敗北を経験した事がその後の佐三郎に大きな転機をあたえました。

一  
次号につづく

あそばされました。

本年、秩父が剣道の開催地とあつて、郷土秩父と剣道との関わり、さらに当社とも縁深く現在の剣道界に大きな足跡を残した人物、高野佐三郎先生の名前がすぐに思い浮かぶのではないでしようか。

高野佐三郎先生は、文久二年(一八六二)六月十三日武藏国秩父郡大宮宿(現在の秩父市)に生

まれ、当時は秩父神社境内地に自宅が構えられ、また道場も備えられていたと伝わり、現在では産湯に使つたとされる井戸だけが社殿から乾の方角に現存しています。

世界企業が中国へ進出し現地生産を展開しています。この中国の産業発展に伴つて現地工場が利用する産業用水が大量に使用されることから、世界四大文明の一つで知られる黄河の水量が激減しつつあり、河口付近の風景が変化し、海への悪影響も心配されています。

この度のまほろばシンポジウムにおいて、ケースは異なりますが、まさしく海の危機をなんとか食い止めようと、先駆的に活動を行つてきたのが、講師をつとめられた牡蠣の森を慕う会代表畠山重篤先生。畠山先生は、牡蠣が不漁になつた際、川の上流にある山や森の木々に何か関係があるのではないかと、平成元年より海の環境を守るために漁民による植林活動を続けてきました。その成果があらわれ、今では全国規模でその運動が広がりをみせているそうです。

畠山先生は、平成6年朝日森林文化

## 梟だより



### ◆ 第四回 秩父まほろばシンポジウム

テーマは「森は海の恋人」(氣仙沼湾上流の森づくりに学ぶ)が開催されました。

### ◆ 秩父神社妙見講

自 平成十六年 二月  
至 平成十六年 六月

二月十五日 坂戸妙見講

四月二十二日 小川直志講外三十七名

五月一日 上蒔田妙見講

五月八日 原谷講

五月九日 近戸講

五月三十日 鳥塚金男講元外百五十一名

六月十二日 中宮地講

六月十二日 高野文吉講元外二百四十九名

六月十三日 荒船啓介講元外二百四十七名

六月十二日 下宮地講

六月二十六日 稲山良守講元外七十七名

六月二十六日 別所講

六月二十七日 原嶋信義講元外九十六名

賞受賞、平成7年環境水俣賞受賞、平成11年「みどりの日」自然環境功労者環境庁長官表彰、平成16年日本エッセイスト・クラブ賞受賞など、現在では京都大学フィールド科学教育研究センターで講師を勤められ、この新しい分野での活躍が期待されます。

# 秩父神社大総代紹介



右より

中宮地町 齋藤楓男

番場町 宮前洋一

中村町 井上久

中町 薩摩

上町 松本真一

中町 薩摩

上町 松本真一

上段右より

横瀬町 富田 孝

柳田町 新井 一夫

横瀬町 富田 孝

柳田町 新井 一夫

大総代就任

秩父市中町の浅賀克彦

な当社諸事業にご尽力いたきました秩父市  
中宮地町の大総代斎藤信介様が本年一月にお  
亡くなりになりました。謹んでご冥福をお祈  
り申し上げます。

昭和から平成の御大典奉祝事業、また様々  
な当社諸事業にご尽力いたきました秩父市  
中宮地町の大総代斎藤信介様が本年一月にお  
亡くなりになりました。謹んでご冥福をお祈  
り申し上げます。

## 氏子青年会新役員名簿

常任幹事	監事	会務局	副幹事	副幹事	副幹事	副幹事	相談役
名	名	名	名	名	名	名	名
○山澤根弘敏克(大煙宮側)	○山澤根弘敏克(大煙宮側)	新井利茂(中町生場)	大護朝茂木手山山伊古田	守川木村島本寄田	黒岩萩嶋原原丸	岡田正裕(中町東町)	忠司(中町)
名	名	名	名	名	名	名	名
○山澤根弘敏克(大煙宮側)	○山澤根弘敏克(大煙宮側)	新井利茂木村島本寄田	守川木村島本寄田	黒岩萩嶋原原丸	岡田正裕(中町東町)	忠司(中町)	忠司(中町)
名	名	名	名	名	名	名	名
○山澤根弘敏克(大煙宮側)	○山澤根弘敏克(大煙宮側)	新井利茂木村島本寄田	守川木村島本寄田	黒岩萩嶋原原丸	岡田正裕(中町東町)	忠司(中町)	忠司(中町)
名	名	名	名	名	名	名	名
○山澤根弘敏克(大煙宮側)	○山澤根弘敏克(大煙宮側)	新井利茂木村島本寄田	守川木村島本寄田	黒岩萩嶋原原丸	岡田正裕(中町東町)	忠司(中町)	忠司(中町)
名	名	名	名	名	名	名	名
○山澤根弘敏克(大煙宮側)	○山澤根弘敏克(大煙宮側)	新井利茂木村島本寄田	守川木村島本寄田	黒岩萩嶋原原丸	岡田正裕(中町東町)	忠司(中町)	忠司(中町)

## 編集後記

■この度の社報では、「緑」「自然」の大切さをお伝えしてまいりましたが、当社の境内は今、眩しいほどに色鮮やかな緑に包まれております。今年新たに上境内に十本の蝦夷梅が植栽され、また平成殿前には、藤棚が整えられ、参拝の方々に憩いのひと時を堪能していただけます。

■ここ数年来、夏の気温上昇の異常さには驚きを通り過ぎ、呆れるほどですが、この都市近郊においてみられる気温上昇現象をヒートアイランド現象といい、これを防ぐ策として、ビルの屋上を緑地化する事で気温上昇を緩和する計画が進められているそうです。

■この度の論説にも掲載されましたようの愛知万博のシンボルである「天空鎮守の森」バイオ・ランゲージは将にこれから人間社会と自然との調和を意味するところと考え、次世代を担う子供達のために世界の人々が緑豊かな地球を守り築いていく事を願っています。



※本報の用紙はグリーン・ユーティリティマットト100%の再生紙を使用しています。